

みなりハ

第10号

発行日2014. 7

今年の梅雨は例年より長引くとのことですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？
さて、今回の“みなりハ”は前号でご紹介しました“つながるリハビリテーション”の第2段です。
訪問スタッフによる院内リハビリの代診の様子と、訪問リハビリを始められる方の退院時前指導の
同行の様子です。 当院では訪問リハビリを利用される予定の方に、入院時から在宅復帰に向け、
必要に応じて下に掲載しました写真のように、院内スタッフと協力しながら訪問スタッフによる介
入を行っています。

(訪問スタッフによるリハビリの代診)



退院後に必要となる、自宅内での生活動作の練習を中心に、リハビリを行っていきます。その際、入院以前の生活の様子など聞かせて頂ければと思います。

(訪問スタッフによる退院時前指導)



病院スタッフに同行し事前に自宅を訪問させて頂き、退院に必要な環境調整や生活動作指導、福祉用具の選定など、退院後に必要な相談・提案などを一緒にさせて頂きます。

「お家に帰って何したい？」

院内スタッフ：「Aさん、お家に帰ってやりたいと思うことを教えてください」

Aさん：「え〜っと…ご飯を作って、洗濯や掃除をして、お風呂に入りたいわね…」

院内スタッフ：「体の状態や家の環境等を考えながら、一緒に優先順位をつけていきましょう。それと訪問リハビリのスタッフにも見学についてもらったり、意見をもらいましょう」

これは、脳梗塞により当院回復期病棟に入院中だったAさん（女性）と院内スタッフのリハビリでの一場面です。Aさんは退院後訪問リハビリを利用することが決まっておられた為、優先順位の決定やその内容について、訪問スタッフと院内スタッフで共有し、時には訪問スタッフが院内のリハビリを代行することで、Aさんを中心としたチームとして、家に帰って何がしたいのか、その為にどんな準備が必要なのかを明確なものにしていきました。

Aさんと一緒に考えた優先順位は①簡単な食事の用意 ②洗濯 ③掃除 ④入浴です。

Aさんは、ご家族が仕事をされていることから、日中お一人になられる時間が多く、「自分で出来ることはできるだけ自分で行いたい」との思いを非常に強く持っておられました。

訪問スタッフは、院内スタッフからAさんの体の状態や家屋情報を事前に見せてもらい、その上でよりお家の環境に近い状態で、洗濯機から衣服を取り出したり洗濯かごを持って歩く練習や、お茶を沸かす練習、手すりを持っての段差練習、リハビリ室の浴槽を使用しての入浴練習などを、ご本人の様子に合わせて行ってほしいことを伝えさせてもらいました。

訪問リハビリが始まって数か月が経ち、冷凍うどんやタコ焼きを調理し、使ったお皿を片手で洗い、食器乾燥機に入れるまで一人で行われるようになりました。また、洗濯機から洗濯物を取り出し、お部屋に用意した物干しまで洗濯かごを持って歩けるようになりました。ハンガーに片手で服をかける際に、服が滑り落ちないようにゴムを巻きつけたハンガーを用いて、洗った物を干せるようになりました。

現在、掃除機やシャワーの利用に関しては、「一人でするには、まだまだもう少しこけると危ないから…」と行えていませんが、あくまでも目標はそれらを「一人で行うこと」と言われ、訪問リハビリだけではなく、自主トレーニングも頑張っておられます。

「入院中にしていた練習は、こんな場面で意味があったのね…」と話して下さるAさん。今後は掃除機やシャワー浴を目標に「まだまだ頑張らないとね」と笑顔でリハビリに取り組みられています。訪問リハビリでは、入院中より患者様や院内スタッフと協力・意見交換をしながら利用者の皆様の「～がやりたい！」という思いに応えられるよう頑張っていこうと思っています。お家に帰って「こんなことがやってみたい！」と思っておられる方は、担当スタッフにお声かけください。



夏場は高齢者の熱中症・脱水などの事故が毎年起きています！
こまめな水分補給を心がけて、暑い時は無理せずエアコンなども上手に利用して夏を乗り切りましょう！！